



市長室だより

きりん
麒麟

今年の大河ドラマは明智光秀が主人公の「麒麟がくる」。麒麟と言えば、私たちは山中鹿介を連想します。鹿介はよく、山陰の麒麟児と形容されます。この由来の一つは、江戸時代後期の学者・頬山陽が詠んだ漢詩の一節と言われています。

題「山中幸盛（鹿介）」

（略）嶽嶽驍名誰喚鹿 虎狼世界見麒麟
鹿介は武勇で名高いが、どうして鹿と呼べようか。虎や狼のうろつく戦国の世に生きた麒麟である。

一方、光秀と鹿介は実際に関わりがあったと伝えられています。江戸時代に編さんされた豊臣秀吉の生涯を叙述した「太閤記」にそのエピソードがあります。

天正年間、鹿介は光秀の客分となっており、そのときの丹波攻めで、鹿介が大きな働きをしたことが記述してあります。また、同じ頃、織田信忠軍に属して松永久秀が籠る信貴山城攻めに参加し活躍したことが紹介されています。

二人の武将が活躍したのは同時代。何が起こっても不思議でない戦国の世です。麒麟と呼ばれる二人の共通点や関係性を想像しながらドラマを見るのも楽しいかもしれません。そして、戦国時代に注目が集まることで、山中鹿介や月山富田城跡への関心の追い風になることを期待しています。

市長 短信



◆明智光秀と関係があつた人。
麒麟…才能の傑出した人。
と言われる山中鹿介。

どげなかわ

2020 2 月号

もくじ

- 2 市長室だより
- 3 市政トピックス
- 4 特集：多文化共生社会を目指して
とも
このまちで一緒に
- 8 人権を考える/加納美術館だより
- 9 民生委員・児童委員を任命
- 10 たうんとぴっくす
- 12 健康の窓
- 13 新刊図書紹介
- 14 「ジョーホーの森」各種お知らせ
- 20 きらり光る地域（裏表紙）

別刷 市民カレンダー

2月の行事／日曜日・祝日診療など

今月の表紙

大空高く飛べ

年明け早々の中海ふれあい公園では、色とりどりのたこが新春の空に彩りを加えていました。江戸時代に「立春の季に空に向くは養生の一つ」とされ、行われるようになったという一説が残るたこ揚げ。新年に「上」を向ける縁起の良いこの遊びは、今も変わらず子どもたちに親しまれています。

撮影日／1月5日 場所／中海ふれあい公園（穂日島町）

